

バイオマスタウン構想の概要

1 バイオマスタウン構想とは

国： 地域のバイオマスを効率的かつ総合的に利用推進するため「バイオマスタウン」を募集(H16年～)平成22年までに300市町村の策定を目標としている。

(1) バイオマスタウンとは

「地域内において、バイオマスの発生から利用までが効率的なプロセスで結ばれた総合的利用システムが構築され、安定的かつ適正なバイオマス利用が行われている地域」

(2) 指定の基準

ア 地域内における廃棄物系バイオマスの90%以上または未利用系バイオマス40%以上の利用
イ 計画熟度が高く、安定的で適正な利用の促進が見込まれること

(3) メリット

公表されると、農林水産省から「バイオマス利活用交付金」が優先的に受けられる。
(補助率：市町村主体事業1/2・民間主体事業1/3以内)

(4) 策定(公表)の状況

ア 平成20年9月現在、全国で157市町村が公表されている。

イ 県内は、千曲市、佐久市、旧三郷村(現、安曇野市)、旧長谷村(現、伊那市)の4市町村

バイオマスとは

「生ごみ等の食品系、家畜の排せつ物等の畜産系、間伐材等の木質系に区分され、動植物由来の有機性資源であり、持続的に再生可能な資源」



長野県：「バイオマス総合利活用マスタープラン(県農政部)」を策定し、バイオマス利活用の指針を示す。

基本方針

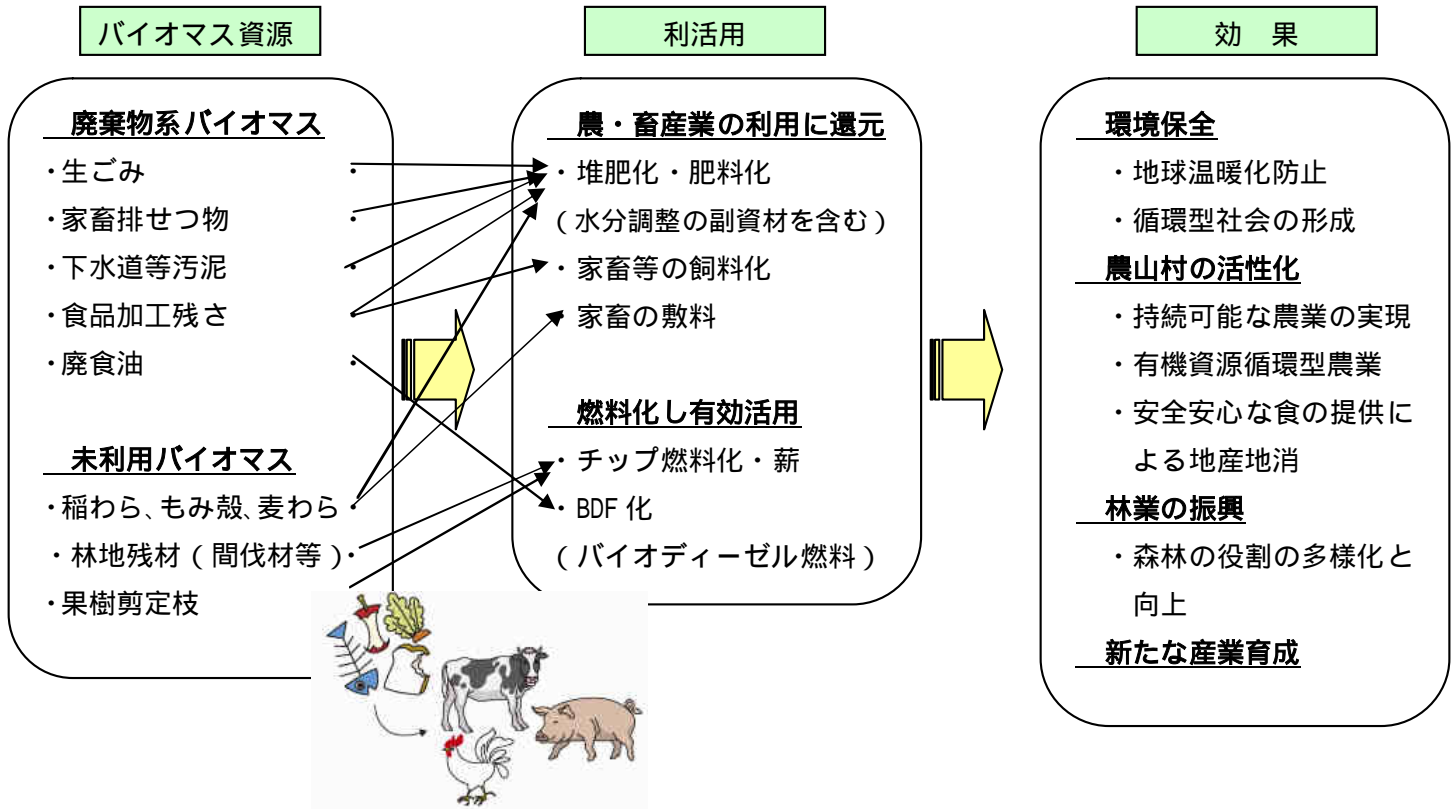
「バイオマスは生物由来の有機性資源であることから、主に農山村から発生し、その利活用についてもほとんどが農業への利活用となっています。このため、農村の持続的な発展や環境保全型農業の発展を図るためにも、バイオマスの農業利用への取り組みは有効な対策であります。

また、農業は自然循環機能を活用しながら、生ごみ等の廃棄物を堆肥や家畜飼料にリサイクルし、これを食糧生産に役立てることができる産業であるため、埋立廃棄物の減量化を目指す循環型社会の構築に貢献します。」

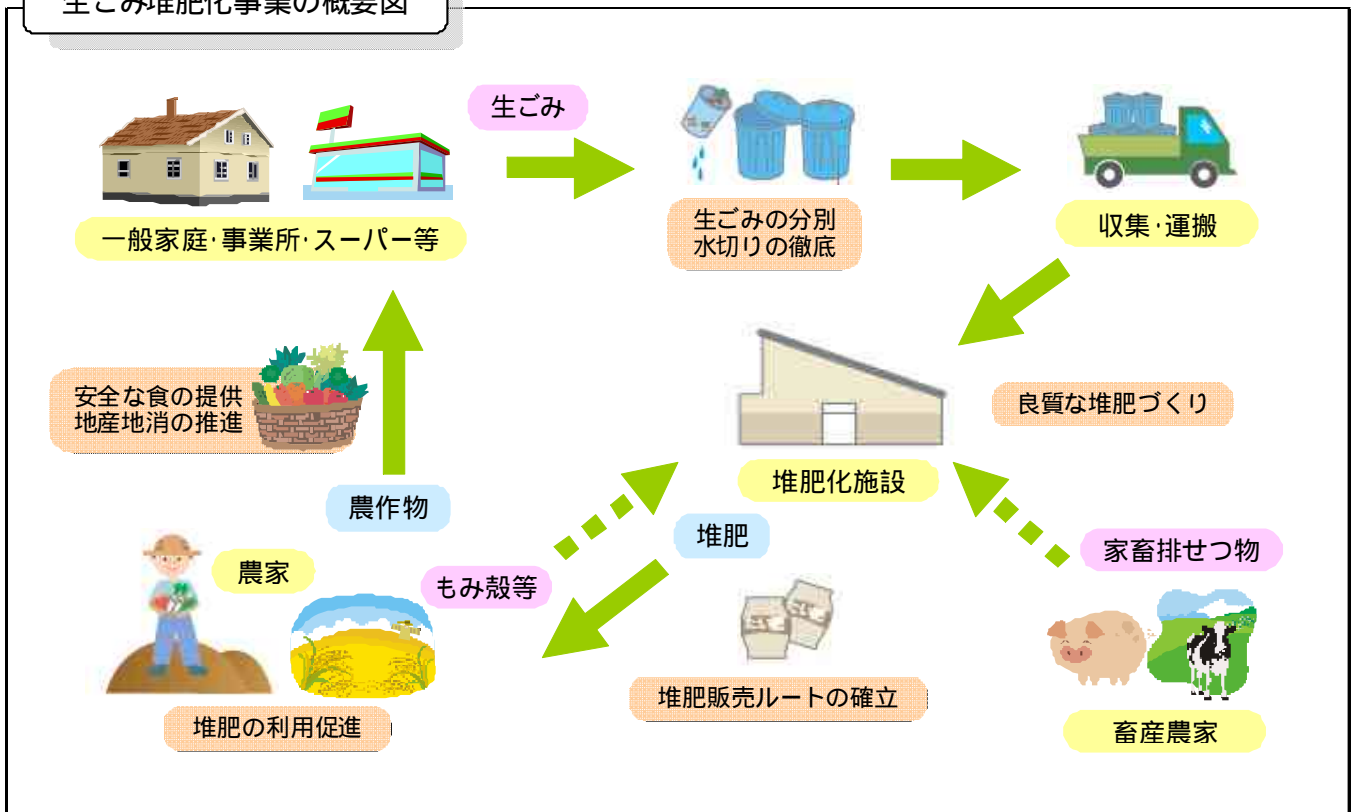
上田市バイオマスタウン構想策定の考え方

「環境保全型農林業の推進」 農林分野のエコタウン実現(バイオマス資源循環のまちづくり)

廃棄処分等されている主に農山村で発生するバイオマス資源は、農地に還元したり、農・畜産利用を図る。森林に放置されている松くい虫被害木や間伐材等の林地残材及び果樹剪定枝を燃料化し、有効活用を図る。



生ごみ堆肥化事業の概要図



上田市バイオスタウン構想の概要

1 目標

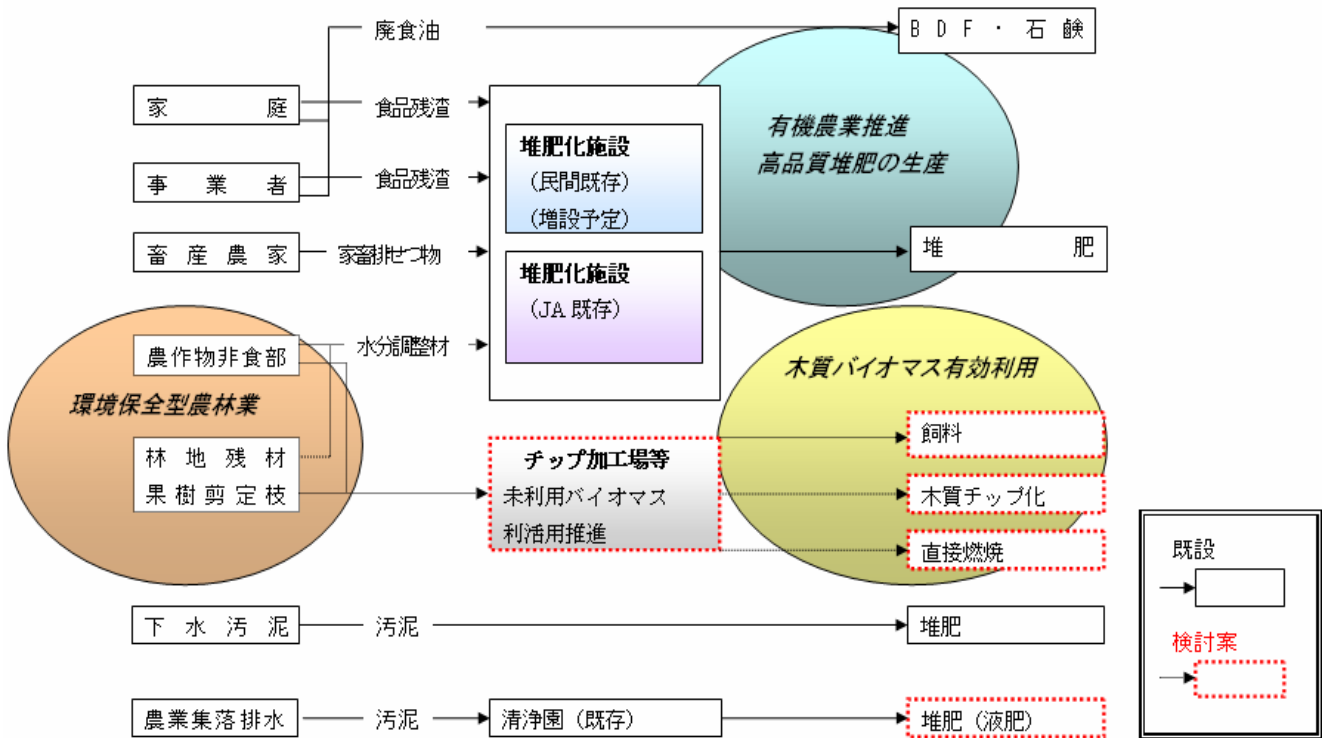
上田市環境基本計画の基本目標である「地域資源を活かし、地球にやさしいまち」実現に向け、課題となっている焼却ごみの減量化や森林内に大量に放置されている間伐材等の現状を踏まえ、「環境にやさしい農林業の推進」を目標とします。

2 主な施策及び全体利用計画

- (1) 生ごみを始め、家畜排せつ物、稲わら等の農業系バイオマス等の堆肥化など、地域で発生した有機資源を利用した循環型有機農業の推進により、地域資源循環の形成と環境保全型農業の確立を目指します。
- (2) 豊富な森林資源を中心とする木質バイオマスをエネルギー源として公共施設等で活用することにより、木質バイオマス資源の地域内循環の促進と森林整備の促進・林業の活性化を図ります。

上田市バイオスタウン構想 イメージ図

— 環境にやさしい農林業推進型バイオスタウンの構築 —



3 重点事業における当面予定されている施設整備等の取組工程

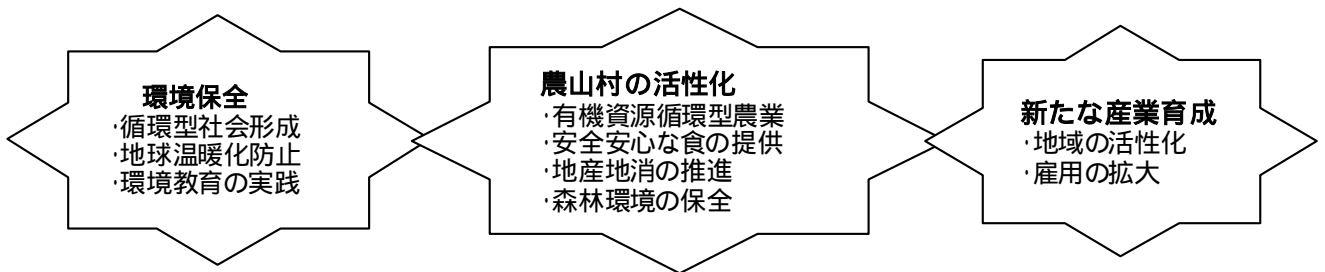
事業	項目	H20	H21	H22	H23	H24
生ごみ堆肥化事業	事業化計画の策定	第一次計画（試験的整備）		第二次計画（本格的整備）		
	施設整備					
	分別収集地区拡大					
木質バイオマス燃料化事業	導入施設等検討					
	事業化計画の策定					
	機械・保管庫整備 ボイラー導入					
農業集落排水汚泥の液肥化	実証実験					
	取組の検証と課題研究					

4 バイオマスの利活用目標

市域から発生する廃棄物系バイオマス90%、未利用系バイオマス26%の利活用を目指します。

バイオマス	賦存量 (t/年)	炭素換算	変換・処理方法	利用状況			目標			
				仕向量(t/年)	炭素換算	利用率	仕向量(t/年)	炭素換算	利用率	
(廃棄物系バイオマス)					6,757	82%		7,375	90%	
畜産系	乳用牛糞尿	7,001	418	堆肥化	6,931	414	99%	6,931	414	99%
	肉用牛糞尿	13,569	810	堆肥化	13,433	802	99%	13,433	802	99%
	豚糞尿	8,443	504	堆肥化	8,359	499	99%	8,359	499	99%
	鶏糞	4,295	256	堆肥化	4,252	254	99%	4,252	254	99%
木質系	製材所廃材	4,861	1,083	木材チップ化 敷料及び堆肥化	4,375	974	90%	4,375	974	90%
	家庭剪定枝	753	168	チップ化、堆肥化	538	120	71%	602	134	80%
	公園剪定枝	268	60	チップ化、堆肥化	150	33	55%	214	48	80%
	建築廃材	7,249	3,192	木材チップ化	5,799	2,553	80%	6,524	2,873	90%
食品系	生活系生ごみ	10,378	459	堆肥化	2,092	92	20%	5,189	229	50%
	事業系生ごみ	4,224	187	堆肥化	480	21	11%	3,379	149	80%
	給食センター生ごみ	76	3	飼料化	76	3	100%	76	3	100%
	食品加工残渣	805	36	飼料化・堆肥化	728	32	89%	728	32	89%
	廃食油	135	100	BDF、石鹸	15	11	11%	20	15	15%
下水汚泥	公共下水道汚泥	6,520	626	セメント化	6,520	626	100%	6,520	626	100%
	公共下水道汚泥	1,120	108	堆肥化	1,120	108	100%	1,120	108	100%
農集排汚泥	農集排汚泥	11,230	216	肥料化	11,200	215	100%	11,200	215	100%
(未利用バイオマス)					816	13%		1,603	26%	
農業系	稲わら	11,764	3,368	敷料及び堆肥化	1,176	337	10%	2,353	674	20%
	もみ殻	2,368	678	堆肥化	1,184	339	50%	1,421	407	60%
	麦わら	656	188	堆肥化	0	0	0%	131	38	20%
木質系	林地残材	6,661	1,484	燃料化	0	0	0%	1,332	297	20%
	果樹剪定枝	2,102	468	燃料化	631	140	30%	841	187	40%

5 期待される効果



6 協働体制

